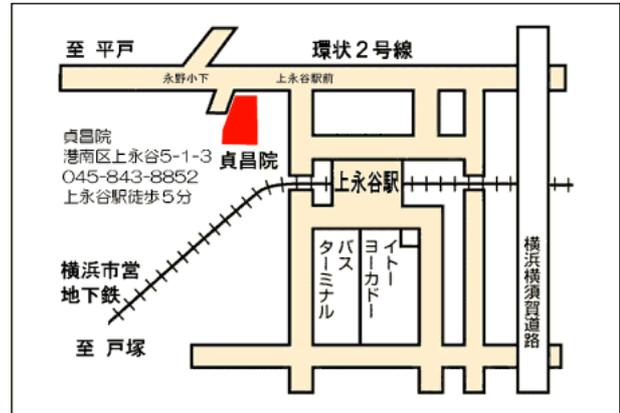


「貞昌院 太陽光発電設備」の概要

概要 曹洞宗 貞昌院

横浜市港南区上永谷 5 - 1 - 3

URL <http://teishoin.net>



導入設備等について

導入時期 平成 15 年 11 月 5 日

導入場所 貞昌院 既築建物（陸屋根）屋上

導入量 5.544KW

設置費用の半額について、下記補助金を受ける

補助金の利用状況

補助金の名称 平成 15 年度 新エネルギー非営利活動促進事業費補助金

補助元 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

補助率 50%

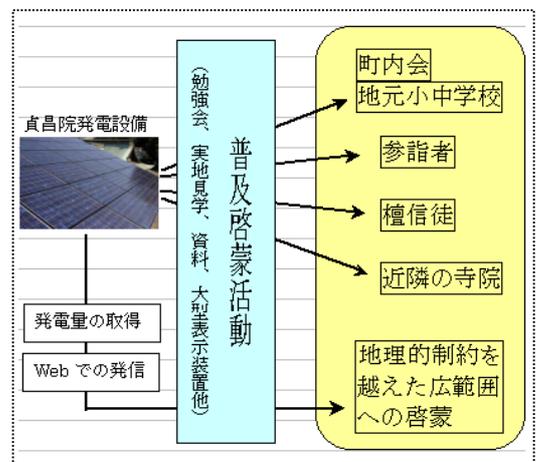
寺院の持つ地域性

寺院は、その特性から、地元と歴史的な繋がりが深いため、下記のグループの核としての役割も担っている。

町内会 地元小中学校 参詣者 檀信徒

また、地域の寺院の連携も深く、それぞれの寺院の新エネルギーに対する関心も高まっているため、近隣の寺院を含めた勉強会などを通して、それぞれの寺院の周囲に普及啓蒙の輪を広げていくことができる。

このような、従来の繋がりに加えて、インターネットを利用することにより、幅広い情報発信ができると考えている。



太陽光発電と寺院の関連性

元来、禅寺は自給自足が原則の生活をしており、究極のリサイクルシステムが確立されております。

曹洞宗の本山、永平寺には『杓底の一残水、流れを汲む千億の人』という石碑が山門前に建っています。「自然は大切であり、今使わせていただける水は、必要以上に使って無駄にしてはならない。後の世の人のために半杓のお水をお返ししたい」という心が、何百年も綿々と受け継がれているのです。

このような背景はありますが、太陽光発電を導入したくても、具体的事例がまだ少ない、或いは太陽光発電自体について知名度がまだ足りない現実があります。

従って、太陽光発電の導入から発電実績まで、具体的に分かりやすく体系的に情報発信していくことが、とても重要であり、普及促進の効果が期待できる好機であるともいえます。

そこで、貞昌院では太陽光発電を街から一番良く見える位置に設置し、「太陽光発電設備」の文字を大々的に掲げました。

また、客殿玄関脇に発電量を表示するモニターを設置し、わかりやすい形で自然エネルギーの利用法を啓発することと同時に、必要な資料を配布できるようにしています。

さらに、定期的に、上記で示したグループを対象に、それぞれ普及啓蒙の勉強会、見学会を開催しています。

また、同時にインターネットで、リアルタイムに積極的に情報発信を行っております。

特に、インターネットについては、貞昌院で9年前から運営を行っているホームページで発電量をリアルタイムに発信していくほか、ライブカメラ（現在2つのライブカメラが稼動中）で、太陽光発電装置の現在の状況をリアルタイムに発信しています。

これまでの主な活動

太陽光発電設備設置後、別紙の通り、平成15年11月5日より発電量は順調に推移している。

客殿玄関の発電量大型表示装置を、来訪者から良く見える位置に設置。

上記発電量大型表示装置の前に各種資料を配布できるよう棚を設置した。

インターネット上に太陽光発電についての資料、発電実績を掲載した。

新聞メディア等から取材があり、記事として掲載された。

主な活動実績 地元小学校の環境勉強会 H16.2.23 児童 50人

檀信徒への設備設置報告 H16.4.10 参加者 120人

近隣寺院・檀家さんとの勉強会 H16.7.26 参加者 20カ寺、檀信徒 420名